



「三博とともに」 下

野球の裾野を広げた軟球

ナガセケンコー



日本最古とされる軟式野球ボール(左)と最新のボール(右)3月30日、墨田区の軟式野球資料室で

墨田区墨田2の34の9。開館は平日午前10時～午後4時。入館には事前に電話(03・3614・3501)で予約が必要。無料。

■ 軟式野球資料室

子どもから大人まで、全国に約500万人の愛好者がいる軟式野球。墨田区のボールメーカー・ナガセケンコーの工場敷地内には、1000年に及ぶ歴史を伝える「軟式野球資料室」が設置されている。

「現存する日本最古とされる軟式ボールです」。同社広報担当の宮本憲一さん(59)が、棚から古びた小さなボールを取り出した。

1918年に京都の文具商が、兵庫のゴム業者に頼んで試作したものとされる。滑りにくくするため、表面には自転車のペダルをヒントにした無数の丸い突起が刻まれている。翌19年、このボールを使った野球大会が京都で開催され、軟式ボールによる少年野球の歴史が幕を開けたと

いう。

約30平方メートルの館内には、戦前から戦後にかけて改良が続けられた歴代の軟式ボールや、大正時代に全国大会で優勝した高等女学校チームの集合写真など、約1000点の資料が展示されている。

ナガセケンコーは、34年に長瀬ゴム製作所として創業された。同社によると、当時、ボールメーカーは200社以上あったが、戦時色が濃くなった38年、数社に再編された。ゴムは重要物資だったため、軟式ボールを製造できるのは、現在の同資料室の隣にある同社工場に限られた。

43年には、その工場も閉鎖されたが、ボール製造に必要な設備を守っていたため、戦後すぐに生産を再開できた。

宮本さんは「軟式野球の復興は墨田区から始まった」と語る。

高度経済成長を経て、日本が豊かになるにつれ、子どもたちの体格は良くなった。これに合わせて公認球も大きくなるなど、軟式野球は時代とともに進化した。展示室には、昨年発売されたばかりの新公認球「M号」も並んでいる。バウンドしにくいなど、より硬式ボールに近いのが特徴という。

全日本軟式野球連盟(渋谷区)専務理事の宗像豊巳さん(66)は「軟式ボールは、1世紀にわたり野球の裾野を広げてきた」と強調する。軟らかいゴムでできているため、体に当たってもケガが少なく、幼い子どもでも楽しむことができる。軟式野球に親しんだ後、硬式野球の世界に入り、プロを目指すケースも多い。宗像さんは「資料館を訪れ、軟式ボールの歴史を知れば一層野球が楽しくなる」と話していた。

江東

本社 江東
立川 武蔵野

江東支局 〒130-0022
墨田区江東橋2の13の4
錦糸町シティビル
電話 03(3631)6116
FAX 03(3632)2530
koto@yomiuri.com
都内版編集室
電話03(3217)1465・1466
武蔵野支局 電話0422(51)3131
立川支局 電話042(523)4477
ホームページ
http://www.yomiuri.co.jp/local/

購読は **0120-4343-81**

【広告】読売エージェンシー
03(5226)9925
【折込チラシ】 0120-03-4343
【読売旅行】 03(5550)0666